

ゼミ活動報告

「1期生による卒業論文発表会が行われました」

宮川ゼミ 1期生

奥本将史

2013年2月13日、学術情報総合センター5階 AVホールにて1期生による卒論発表会が行われました。1期生にとっては、宮川ゼミ生として同期、後輩達、そして先生の前で行う最後のプレゼンテーション。弥が上にも緊張が高まります。まず今西のプレゼンから始まり、私奥本、木村、川野、小坂、芝内、鈴木、田邊の順です。それぞれが、宮川ゼミで過ごした約2年の集大成として、多くの時間を卒論作成に割いてきました。そして、その成果が15分間のプレゼンに凝縮されているのです。発表の1秒1秒が濃密で、4時間近い時間があっという間に過ぎていきました。



私は2番目ということで早々とプレゼンを終えました。そのため、落ち着いて同期たちのプレゼンを見ていたのですが、各々の発表を聞いていると、様々なことが思い返されます。「いまは一は見た目と違ってイイ奴だったなー」とか、「だいは何か変わらないなー」とか、「りょーぞーはゼミ入る時からブランドブランド言ってたなー」などなど。正直に言うと、プレゼン自体は上の空で、そんな風に宮川ゼミで過ごした時間を振り返っていました(笑)。宮川研究室HPで紹介されているように「ばらばらな個性」という言葉がぴったりの1期生たちが、こうやって卒論をなんとか期限内に書き上げ、発表し、もうじき卒業を迎えようとしています。2年という短い間でしたが、その内容たるや濃密で、様々なことを経験しました。コーポレートファイナンスの



輪講、企業分析、IRC、ストックリーグ、CORE論文など。また、勉強だけでなく合宿、飲み会も多く開催されました。これらを通して、時には衝突や対立、問題が生じることもありましたが、深く固い絆が同期の間で形成されました。私自身この2年間は、本当に幸せな、これ以上ない最高の時間だったと思います。そして、発表会が終盤に差し掛かるとともに「そんな時間ももう終わりだな」などと考え、少しセンチメンタルな気分になっていました(笑)。

自分のプレゼンは気合を入れて行ったものの、上述のように同期たちのプレゼンは上の空だったわけですが、後輩たちが僕たちのプレゼンを聞いて何かを感じ、学んでくれたら幸いです。

本稿は大阪市立大学商学部宮川研究室ゼミ生の活動報告を目的として本学学生が作成したものです。本稿に掲載される個人名や企業名はご本人のご協力を得て掲載許可をいただいています。ただし、内容については執筆者の主観的感想や主張が入っており、事実とは異なる場合があります。本稿の目的以外にご使用にならないようお願いいたします。